

「YH 賞 2021」（第 1 回受賞作品）について

出和絵理 《Forest》 2021 年制作

当館学芸員が「YH 賞」に相応しいと思われる若手作家数名を候補に挙げ、彼らの発表する作品を注視してきました。そんな中で、兵庫陶芸美術館開館 15 周年記念特別展「No Man's Land－陶芸の未来、未だ見ぬ地平の先」（2021 年 3 月 20 日～5 月 30 日）に出品された出和絵理氏（1983 年生まれ）の《Forest》（2021 年制作）という作品が俎上に上がりました。本展は、まさに「これからの陶芸を革新していく新しい価値観」を見いだすべく、幅広いジャンルからも注目を集める若手作家 15 名の作品に注目したもので、とりわけ出和氏の作品は、これまで関西で発表することが少なかったこともあり、その独自性と存在感を多くの来館者に強く印象づけるものでした。

「自身の作品とは自己感覚の構築である」というコンセプトのもとに制作する出和氏については、2016 年に金沢美術工芸大学大学院で博士号（美術）を取得するなど、素材と自己とを客観的かつ冷静に思考しながら制作する新進気鋭の作家として知られています。「技法や素材が先行し後発的にイメージが付随した制作プロセスは、自身には無意味であると実感する。作品とは自己のリアリティの表出であり、素材の存在感とそれをつくり出す技術は、それを実現するための方法である」という出和氏の確固たる信念は、21 世紀に活躍する若手作家たちの多くが共有している一つの価値観でもあります。

磁土の持つ触感や光を通す性質、何よりその美しさに心惹かれた出和氏は、試行錯誤の末、土を極薄く伸ばし、自らがデザインしたフォルムにカットして焼成後、中心軸に沿うように等間隔に接合し、放射線状に広がるフォルムを構築するという独自の技法とスタイルを確立しました。それは、「シンボリックで神秘的なもの」に惹かれる作者自身の内面の世界や美意識を映し出すことと、陶芸の表現媒体がじつに上手く結びついたものでした。

《Forest》というシリーズは 2011 年、大学院博士後期課程 3 年在籍中、後期制作作品として発表され、第 9 回国際陶磁器展美濃で金賞・文部科学大臣賞を受賞して以来、制作し続けている出和氏の代表作の一つです。今回の受賞作品については、コロナ禍の中で制作され、「ただ美しいものを作りたくなかった」という作者の言葉通り、フォルムの中心部を抉り、やや求道的な風情の漂う「攻めた」フォルムに仕上がっています。しかし、それが幾何学的なフォルムに落とし込まれていることにより、情緒的というよりも、むしろ理知的な構築物として、見る者の眼前に立ち現れます。従来陶芸のイメージを覆すような斬新な造形に加えて、それが繊細かつ緻密な技と、作者の内面を映し出す知的なアプローチによって成立するこの作品は、「YH 賞」が目指す「先鋭的な表現を追求する優れた作品」に相応しいものと評価し、本作品を「YH 賞 2021」（第 1 回受賞作品）に決定しました。

出和絵理氏について



1983年 石川県かほく市に生まれる
2008年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程修了
2016年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科博士後期課程修了、
博士号（芸術）取得
2011年 第57回ファエンツァ国際陶芸展 ファエンツァ賞（イタリア）、
第9回国際陶磁器展美濃 金賞・文部科学大臣賞
現在、石川県金沢市にて制作

出和絵理氏よりコメント

この度はYH賞を賜り、誠にありがとうございます。思いがけない受賞に非常に驚いたのと同時に畏れ多さを感じております。

受賞対象となった作品は、コロナ禍中に制作したもので、漠然とした不安感や恐れが、作品の繊細さや危うさを助長し、図らずも作品の様相として顕著に表れたものだと思います。その存在感やリアリティが観る人の心に響けば幸いです。

YH氏とは、ファエンツァ国際陶芸展受賞作家展でご一緒させていただき、予てからその瑞々しく豊かな感性や卓越した技術、創作姿勢を尊敬いたしておりました。

第1回受賞者として、この賞の名に恥じぬよう、創作の道に精進して参るつもりです。本当にありがとうございました。

【お問い合わせ先】 〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭4
兵庫陶芸美術館 学芸課 マルテル坂本牧子、村上ふみ
Tel 079-597-3965 (学芸課直通) Fax 079-597-3967